

令和5年度 学 校 評 価 報 告

草加市立小山小学校

(令和6年2月5日作成)

1 学校教育目標	
○進んで学ぶ子 : 草加っ子の基礎基本の定着、読み取る力の育成、書く力、対話する力の育成 ○思いやりのある子 : 道徳的实践力の育成、社会貢献意識の醸成、自他、自然を大切にする心を培う ○体をきたえる子 : 運動の習慣化(なわとび中心)、基本的生活習慣の確立、健康・安全意識を培う ○ねばり強い子 : ねばり強くやりぬく力の育成、協働する意欲の醸成、課題をみつけ、挑戦する力の育成	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
◇学年・学級経営の充実 ◇学習指導の充実 ◇道徳・人権教育の推進 ◇子どもを取り巻く環境全体の連携推進 ◇生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実	成果 ○基礎的基本的な知識技能の習得 ○健康安全教育の充実 ○相談体制の充実 課題 ●学力の一層の向上 ●生徒指導教育相談のさらなる充実

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	○教育活動に関する保護者アンケートでは、「できている」とする評価が7項目中5項目で90%を超えた。定期的な確認及び各主任との連携により、適切に予算執行することができた。 ●働きやすい職場、風通しのよい職場等、働き方改革に向けた学校運営の改善を継続して 図っていく。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	○草加市教育委員会委嘱「自己肯定感自己有用感を高める研究」において「特別の教科 道徳」及び「外国語科・外国語活動」を中心に研究発表会を実施することができた。 ●各種学力調査結果を踏まえ、学力向上に向けた取組を全校で推進を図る必要がある。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	○学校保健委衛生員会を定期的に開催し、教職員との共通理解を図り、保健衛生運営を行うことができた。健康・安全に関する項目で「できている」の評価が98%であった。 ●健康・安全に関する取組の徹底を今後も継続する必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	B	○個人情報管理規定に基づき、個人情報の適正な管理ができた。日常・定期の安全点検を実践し、課題箇所に対する迅速な修繕が図られ、安全・安心な施設管理を推進した。 ●本年度、学校集金を銀行引き落としへと移行する中で、引き落としにおける課題が明確となり、今後改善を図る必要がある。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	○学校運営協議会やPTA本部との連携に努め、その成果を適宜学校運営にいかした。 ●ホームページの定期的な改訂や各種学校からの便りの内容の充実を図りより学校情報の発信を図っていく必要がある。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	A	○花栗中学校区と学校と連携し、草加市教育委員会委嘱「自己肯定感自己有用感を高める研究」の研究発表を実施することができた。 ●本年度の成果を引き続き次年度へも生かしていくことが必要である。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程の進捗状況を定期的に確認し、教育課程を適切に実施した。 ●授業時数、学習内容ともに適切な教育課程の実施を継続する。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感自己有用感を高めることができた。児童アンケートでは、「授業は分かりやすい」の項目で89%が「そう思う」との回答であった。 ●今後も授業改善に向けた継続的な取組が必要である。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○委嘱研究の重点教科として研究を深めることができた。 ●今後も、「考え、議論する道徳」の一層の充実に努める必要がある。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○委嘱研究の重点教科として研究を深めることができた。 ●今後も、「外国語科外国語活動」の一層の充実に努める必要がある。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別活動主任が中心となり、「あいさつ運動」等の児童会活動の改善を図ることができた。 ●引き続き主体的な児童会活動と学級経営の一層の推進を図る必要がある。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年に応じた教科横断的な学習、創意ある授業実践を推進した。 ●引き続き、主体的な学習や体験的な学習、ICTを活用した授業を推進する必要がある。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導委員会・教育相談・いじめ対策委員会を定期的に開催し、情報共有及び指導内容の共通理解を図った。 ●早期解決に向けた組織的な指導体制の改編も含め改善充実を図る必要がある。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の視点を明確にし、身の回りの仕事や環境への関心の高揚を図った。キャリアパスポートを活用し、家庭との連携を図った。 ●勤労を重んじる態度、将来への夢や希望の獲得に向けた教育を一層推進する必要がある。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童理解研修会や巡回相談を活用し、配慮が必要な児童への指導の共通理解を図った。校内通級体制を構築した。 ●課題への早期対応や教育的ニーズに応じた支援体制を構築していく。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館の環境整備、図書館教育の取組等により、多くの児童が本に親しみ、昨年度よりも学校図書館の貸し出し冊数が増えた。 ●今後も、家庭での読書習慣の支援と学校における読書活動の推進が必要である。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学習者用PC端末を活用した研修を実施し、情報教育の授業改善を図った。 ●情報教育における授業改善と児童の情報モラルに関する理解と意識の向上を図る必要がある。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全体計画及び年間指導計画を策定し、組織的・計画的に人権教育に取り組んだ。 ●「人権感覚育成プログラム第2集」を用いた参加体験型学習の充実を図る必要がある。

草加市立小山小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが分かる授業実践 家庭との連携 各種学力学習状況調査結果の向上 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○市教委委嘱「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり」を実践し、自己肯定感自己有用感を高めた。 ●県学調や市学調の結果から学力向上が本校の喫緊の課題であり、基礎学力の向上に向けた指導力の改善や常時活動の充実を学校を上げて取り組む必要がある。
	②規律ある態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ、返事、靴そろえ、チャイム着席、黙働清掃、正しい姿勢の徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学習時の姿勢について児童アンケートが2ポイント改善した。毎年増加の増加傾向から「腰立てタイム」の取組の推進の結果である。 ●あいさつについての児童アンケートで、2割の児童が「あまりできていない・できていない」に回答し、改善が見られなかった。今後も、あいさつ運動の取組の強化が必要である。
	③体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に運動する授業の実践 体育的活動の充実 体育に関する研修の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、体育授業で縄跳びに取り組むとともに、「草加市縄跳びチャレンジ2023」の機会も活用し、児童の意欲を高めることで体力の向上を図った。 ●新体力テストの結果から、本校の課題である持久力と瞬発力を改善するため、学校全体での補強運動を実施する必要がある。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

学校教育目標の具現化を目指し、基本方針に沿って学校経営を図った。また、子ども達にとって安心安全な学校を心がけ、全教職員による協働意識のもと教育活動を展開した。

成果として、保護者アンケートの学校運営に係る部分では、7項目中5項目で90%を超え、特に「健康や安全を配慮している」98%、「電話や接客などの対応が適切で丁寧に行われている」98%、「体力の向上する授業や活動が行われている」95%、「困ったときに相談しやすい学校である」93%、と高い結果であった。児童アンケートでも「学校生活が楽しい」88%、困ったときに相談できる先生や友達がいる」91%と高い割合で肯定的な回答を得た。学校運営協議会委員の皆様からも、「子どもたちが落ち着いて学習に取り組んでいる」との評価をいただいた。

今後も、安心安全な学校を土台に学校経営方針である「笑顔いっぱい夢ふくらむ学校」の実現に向けて、指導方法や指導体制、評価の工夫改善に努めていく。

6 次年度の改善策

○学力の一層の向上

- ・本年度の研修発表の成果を引き続き継続し、自己肯定感や自己有用感の向上を図る。
- ・学習者用PC端末を活用した一層の授業改善を図る。
- ・「草加の学びを支える5か条」の徹底と定着を達成するため、チェックリストの活用を図り授業改善を図る。
- ・各種学力調査の分析を行い、児童個々の課題を明確にし、個別最適な学びができるよう手立てを講じていく。

○生徒指導・教育相談の充実

- ・次年度も引き続き、教育相談の充実を図るため、外部機関との連携、家庭との共通理解を深めるとともに、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等との連携を図り、早期対応と解決に努めるとともに、校内通級や学習補助員学級支援員の効果的な活用により個別の児童のニーズに対応した児童支援体制の充実を図る。
- ・生徒指導委員会や教育相談委員会等各種委員会を積極的に活用し、学校全体で取り組む体制の構築を図る。